

新中期経営計画
変革と挑戦～Change&Challenge～

平成20年5月15日

株式会社 西京銀行

(1) 中期経営計画の概要

- 当行は、「お客様から信頼され、選ばれる銀行となる」「地域づくりに貢献する銀行となる」「地域金融サービスの活性化を図る」という基本理念を掲げ、平成20年4月から2年間の中期経営計画を策定し、具体的な取組みを行ってまいります

中期経営計画「変革と挑戦 Change & Challenge」

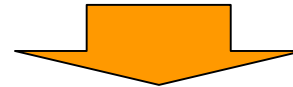
期 間： 平成20年4月～平成22年3月
企業メッセージ： 「ベストフレンドリーバンク(気軽に相談できる銀行)」
位置づけ： 株式上場を視野に入れ、企業価値の向上に注力するための2年間とする

重要課題

- ① 財務内容の健全化—自己資本比率9%以上
- ② 安定収益確保のための収益構造改革(ローコストオペレーション改革)
- ③ 早期の配当復活

(2) 経営ビジョン

「お客様から信頼され、選ばれる銀行」
「地域づくりに貢献する銀行」
「地域金融サービスの活性化を図る」



経営方針

- ① ガバナンス／コンプライアンスの徹底
- ② 人財育成の強化
- ③ リスク管理の強化と高度化
- ④ 企業価値の向上

行動基準

- ① 銀行業務を通じていかに地域社会に貢献できるかを考えること
- ② 西京ファンを一人でも多く増やすこと
- ③ スピード感を持って行動すること
- ④ 求めるのではなく、自ら行動(インサイドアウト)を起こすこと
- ⑤ 銀行員としての品位とプライドを保つこと
- ⑥ 行内コミュニケーションを積極的に高めること

(3) 経営戦略－選択と集中

- 当行では経営戦略における「選択と集中」をより強化し、リスク資本の配賦や経営資源の再配置に関して、大胆かつ積極的に取り組んでいく予定です

リスク資本配賦

信用リスクから市場リスクへのシフト

経営資源の再配置

事業性融資にかかる間接コストの削減

県外から県内へ

県内重点地区への集中配置

店質別ミッションの明確化

(4) 主要施策

- 当行では、「財務内容の健全化」、「抜本的な収益改善」、「早期の配当復活」を実現するため、下記のような施策に対して積極的に取り組む予定です

有価証券含み損
の圧縮

アセットアロケーションの見直しや含み損解消期間の
設定による計画的圧縮

貸出ポートフォリオ
の改善

採算性を重視した貸出を徹底し、収益性の高い
有価証券及びコーポレート運用に資金をシフト

信用コストの圧縮

これまで強化してきた引当を、債務者ランクアップや
法的整理により引当金取崩を実現

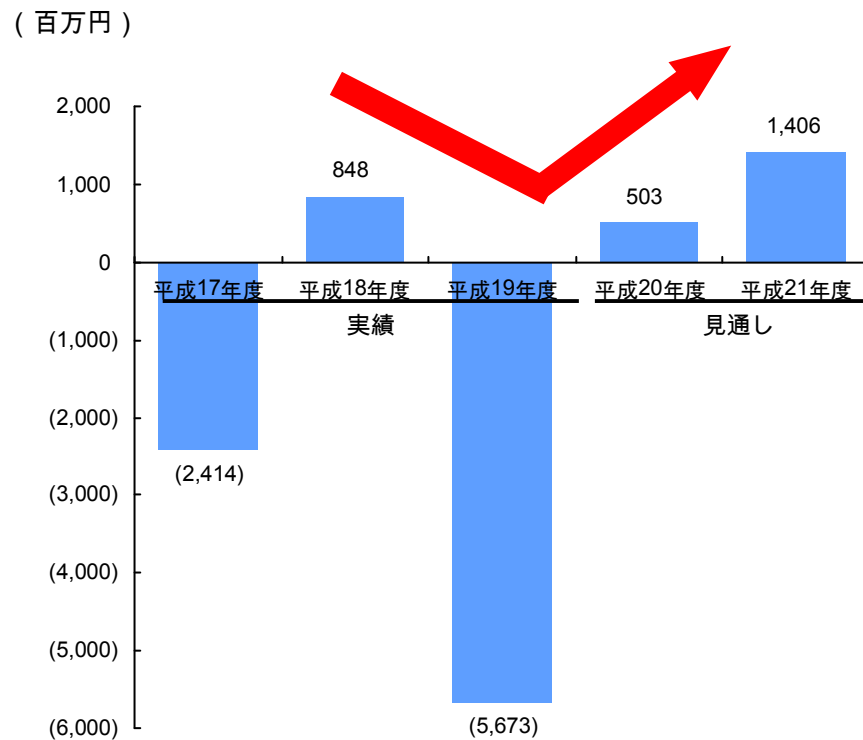
経費の削減

店舗統合や融資事務ライン人員の削減により年間
経費100億円への圧縮を実現

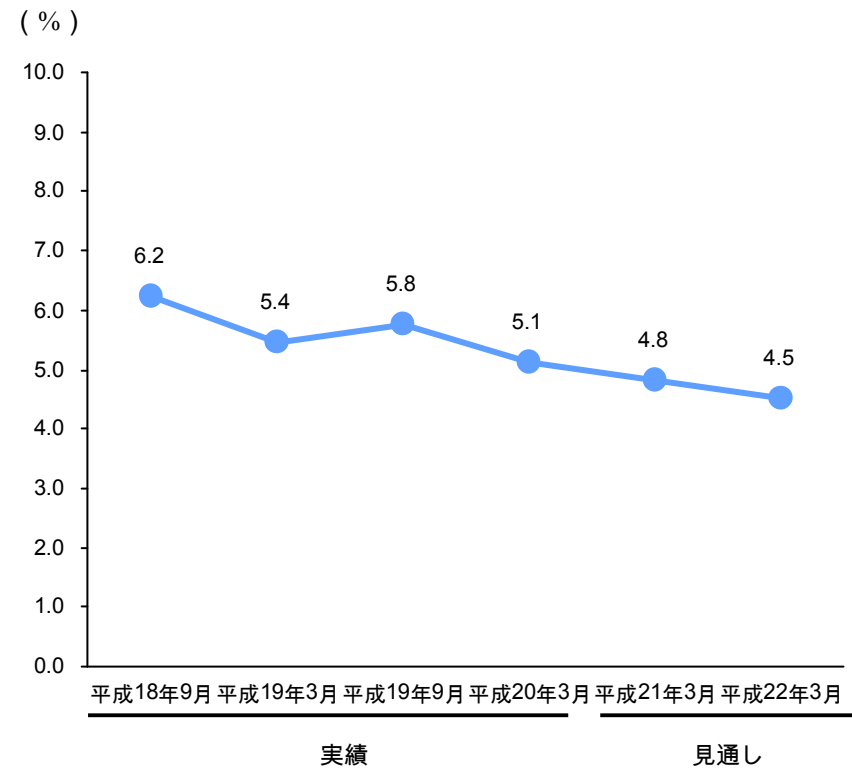
(5) 当期純利益と不良債権比率の見通し

- 当期純利益については平成20年度からのV字回復を見込む一方、不良債権比率は平成21年度中に4%台半ばまで低下すると予想しております

当期純利益(単体)



不良債権比率(単体)



(6)収益計画

- 平成20年度以降は、与信費用の大幅な減少及び収益構造の改革により、安定した収益確保が可能な体質となります

(単位:百万円)

	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画	平成21年度計画
資 金 利 益	16,828	16,309	13,340	12,839	14,356
役 務 取 引 利 益 等	1,172	813	711	741	741
コ ア 業 務 粗 利 益	21,523	16,420	14,148	13,540	15,057
△ 経 費	10,511	11,095	10,397	10,000	10,000
コ ア 業 務 純 益	11,011	5,324	3,751	3,540	5,057
債 券 関 係 損 益	311	234	△ 2,420	0	0
△ 一 般 貸 倒 引 当 金 繰 入 額 ①	959	570	△ 286	△ 200	△ 200
業 務 純 益	10,362	4,989	1,617	3,738	5,254
う ち 株 式 関 係 損 益	2,733	790	△ 455	0	0
△ う ち 不 良 債 権 処 理 額 ②	16,426	4,043	4,551	2,560	2,560
経 常 利 益	△ 1,839	2,580	△ 4,618	928	2,444
当 期 純 利 益	△ 2,414	848	△ 5,673	503	1,406
与 信 費 用 (① + ②)	17,386	4,613	4,264	2,360	2,360

(7) 主要バランスシート項目

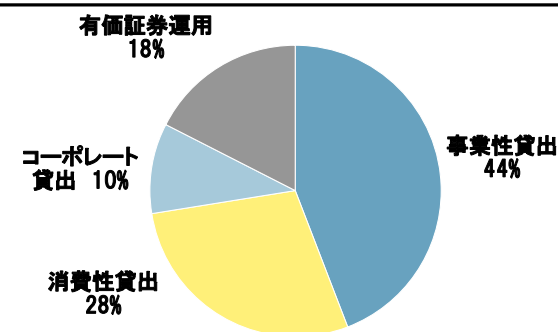
- 平成20年度以降は、事業性貸出からコーポレート貸出等にシフトすることにより、収益性の高いポートフォリオへの転換を図ります

主要バランスシート項目

(百万円)	平成19年度 (実績)	平成20年度 (計画)	平成21年度 (計画)
運用			
事業性貸出	283,396	273,997	257,943
消費性貸出	182,354	190,640	199,640
コーポレート貸出	63,880	110,027	118,227
円貸出計	540,672	552,608	558,554
有価証券運用	113,172	150,000	180,000
調達			
流動性預金	253,304	264,916	276,528
定期性預金	435,024	447,789	451,177
調達計	697,139	722,247	739,098

運用構造の推移

平成19年度(実績)



平成21年度(計画)

